

# THE ROOF



とよさく  
斎藤豊作 《風景》  
1912 (明治45/大正元) 年頃  
油彩・キャンバス  
65.2×80.3 cm  
当館蔵 (平成29年度新収蔵作品)

## C o n t e n t s

- 長期休館中の活動
- 郡山市立美術館の建築
- 新収蔵作品/ 貸出中の所蔵品
- 美術館における“鑑賞”
- Report
- Information

これからのイベント

WINTER-SPRING PROGRAM 2018

美術館館外プロジェクト

文学の森資料館とコラボ！ 文学×美術

第3回 久米邸アート・トーク

1/21(日) 13:30～14:30

場所:こおりやま文学の森資料館 久米正雄記念館

講師:当館学芸員 定員:15名程度

申込不要

今回は、記念館に残された写真から久米正雄のモダンボーイぶりに注目し、大正から昭和初期頃の芸術・文化、流行などについて解説します。

※文学の森資料館の観覧券が必要です。

ミュージカルがくと館とコラボ！ 音楽×美術

映画上映会

「母たち」(37分)

監督/松本俊夫 音楽/湯浅譲二

3/24(土) 14:00～

場所:ミュージカルがくと館 大ホール 定員:100名

申込不要

アメリカ、フランス、ベトナム、ガーナの四カ国でロケを行い、それぞれの地域に根ざして生きる母たちの姿を捉えたドキュメンタリー映画。1967年第18回ヴェネチア国際記念映画祭グランプリ受賞。湯浅譲二氏が手がける映画音楽の傑作です。レクチャーを交えて上映します。

ふれあい科学館とコラボ！ 科学×美術

ワークショップ 「アニメのしくみを体験しよう！」

アニメーションの基本「ゾートロップ」をつくります。

ワークショップ 「かんたん、びっくり！ 写真をオリジナルの絵にしよう」

転写の技法を用いて、写真からオリジナルのキャンバス画をつくります。

3/4(日) 14:00～16:00

場所:郡山市ふれあい科学館 (多目的研修室)

講師:当館学芸員

対象:小学生以上

(低学年は保護者同伴)

定員:20名

申込方法:電話で美術館にお申し込みください。

2月5日(月)～ (先着順)



アート・カフェ

時間:11:00～12:00

場所:juju130 CAFE

話し手:当館学芸員

定員:各回15名程度

※ご飲食代は各自ご負担ください。

～美味なる作品鑑賞会～

テーブルコーディネートや、美食家たちのエピソードなどを紹介します。

1/20(土) 食卓編

1/27(土) 美食家編

～わたしのおすすめ！とっておきの話～

作家、作品、展覧会など...学芸員とっておきのアート話をお楽しみください。

2/3(土) 日本画家 荻生天泉×書家 尾上紫舟×平安歌人

2/10(土) あつと驚く新聞付録

2/17(土) 描かれた風景を探して～現地調査エピソード～

2/24(土) 「ピカソみたいな絵」ってホメ言葉？ ～いい作品とはなにか～

3/10(土) 画材いろいろ～絵具、筆、キャンバス～

3/17(土) 怖い？楽しい？お酒とアート

3/24(土) 鑑賞力アップ実践トレーニング～鑑賞ゲーム～

スペシャル・アート・カフェ

「レコード寄席～味な風景～(仮題)」

申込必要

3/3(土) 13:30～15:00

場所:juju130 CAFE

講師:田口史人さん(レコード店「円盤」店主)

参加費:ドリンク代としてお一人1,000円

定員:20名(応募多数の場合は抽選)

[受付期間] 1月29日(月)～2月16日(金) 必着 (申込方法はホームページ等をご覧ください。)

休館中に作品を修復しました

常設展の常連のレイノルズ作「エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像」。その修復作業がこの10月に行われました。通常の修復は、修復家の工房へ作品を運び込んで行いますが、この作品はなんと



も約240×147cmというビッグサイズなので館外への運搬が難しいため、長期休館のこの時期に、3人の修復家の方に出張してもらい美術館内で修復作業を行うこととなったのです。見た目はきれいなジェーンですが、やはり長い年月の経過による細かい汚れや絵具の劣化が見られました。修復が済んだジェーンは今、夏の出番まで収蔵庫で一時の安らぎの日々を送っています。(鈴木誠一)



めったに見られない絵画のウラ。タテの木枠は、2枚の板が鉄板で連結されています。



刷毛とクリーナーでゴミをとっています。



細かい汚れをとるには綿棒を使います。

汚れを取った綿棒がこんなに…。

長期休館中の活動

2018年7月6日まで、郡山市立美術館は改修工事のため休館していましたが、その期間、休館中だからこそできるさまざまな活動を継続して行っています。

●館外活動

「美術館館外プロジェクト」として館外でイベントを実施しています。そのひとつとして、湖南公民館で当館所蔵品の特別展覧会を行い、多くの方々にご来場いただきました。他にも、こおりやま文学の森資料館・久米正雄記念館において、文学と美術館・久米邸アート・トーク」を行いました。また、大安場史跡公園のイベント「古墳まつり秋」に参加してワークショップを実施するなど、市内の施設とコラボレーションした事業を行っています。

●館内活動

館内における活動は制限されていますが、より多くの方々にアートに気軽に接していただくことを目的としたアート・バザールを開催し、盛況のうちに終了しました。また、当館併設の「juju130 CAFE」では、カフェを楽しみながらの作品鑑賞会を行いました。

今後ともさまざまなイベントを予定しておりますので、ぜひご参加ください。

報告

美術館館外プロジェクト

大安場史跡公園でのワークショップ 「古墳時代のアートに挑戦！」

10月8日(日)、9日(月・祝)

場所:大安場史跡公園

(「古墳まつり秋」内ブース参加)

ベンガラなどの土から作ったクレヨンで描写体験、「紋切り」技法で装飾模様を作るワークショップを行いました。



久米邸アート・トーク

第1回 10月15日(日)

第2回 11月12日(日)

場所:こおりやま文学の森資料館 久米正雄記念館

講師:当館学芸員

記念館に展示されている作品と久米正雄との関係などについて解説しました。



郡山市立美術館所蔵品展

「日英風景の競演—湖南の自然とともに」

11月19日(日)

場所:湖南公民館 集会室

主催:郡山市立美術館

協力:湖南公民館

「磐梯山と猪苗代湖」「湖南の作家」「明治・大正の美術」「イギリス美術」の4つのテーマで当館所蔵品を約30点紹介しました。ギャラリー・トークを3回行い、展示作品と湖南のつながりや、作品の特徴、魅力などを解説しました。



郡山市勤労青少年ホーム タイアップ事業

「季節を染める～どんぐりからはじまる染色」

12月2日(土)

場所:中央公民館

講師:佐治ゆかり(当館館長)

美術館周辺のどんぐりの殻斗で、2種類のストールを染めました。絞りを施すなど、参加者の個性が感じられる作品に仕上がりました。



文学×美術講座

「描かれた万葉の世界」

12月10日(日)

場所:ミュージカルがくと館 小ホール

講師:当館学芸員

万葉集を題材とした絵画について、歌人像や歴史的背景、描かれている花などに触れながら紹介しました。



アート・カフェ

～Deepな作品鑑賞会～

場所:juju130CAFE

話し手:当館学芸員

鑑賞ツール編

10月7日(土)

彫刻編

10月14日(土)

絵画編

10月21日(土)

工芸編

10月28日(土)

版画編

12月2日(土)

挿絵本編

12月9日(土)

展覧会とは違った視点で、いつもより近い距離感で作品を鑑賞しました。



アート・バザール in 郡山市立美術館

11月26日(日)

場所:美術館ロビー、多目的スタジオ、講義室、juju130CAFE

主催:郡山市立美術館、郡山市立美術館友の会

アートに関するさまざまな品物が出品されました。エントランスには色鮮やかな野菜も並び、アートオークションも開催されました。



# 郡山市立美術館の建築

1992(平成4)年に開館した郡山市立美術館は、今年11月で25周年を迎えました。当館の建物は、1994年に第35回BCS建築賞、1998年には、公共建築百選に選ばれており、地域社会に貢献した優れた公共建築として顕彰されています。

今回は、美術館の建築中の様子がわかる写真と、美術館内のデザインを紹介します。



美術館の建設中の定点写真



美術館に来てまず目に入るのは、周辺の山並みに呼応するようにゆるやかな弧を描く屋根です。郡山市立美術館ニュースのタイトル「ザ・ルーフ」は、この特徴的な屋根(=ルーフ)が由来となっています。

## 美術館内の注目ポイント

当館の建築には、様々な特徴があります。何気なく見てしまいがちな建物も、よく見るとたくさんの発見があります。今回は、その一部をご紹介します。

企画展示室に向かって歩いていくと右手に見えるのが階段ロビー。音響がとてもいいので、この場を利用してミュージアム・コンサートを開いています。



②に見える壁のデザインは、杉材でできた壁(上写真右)と同じ模様になっています。

柱、壁をよく見てみると、木目が見えてきます。これらは、白い顔料を混ぜたコンクリートを杉板の型枠に流し込んで作った建材で作られているのです。天井など周りの木材とも調和していて、どこか温もりを感じませんか？



大きな窓からは、美術館の庭が望めます。新緑や紅葉、雪景色など、四季折々の自然を楽しめます。



# 新収蔵作品



ジョン・ヴァーレー・ジュニア 《東京、麻布》 1891年 油彩・板 28.0×34.8 cm



ジョン・ヴァーレー・ジュニア 《赤羽、芝公園の一隅》 1891年 油彩・板 27.8×34.2 cm



石橋和訓 《男性裸像》 1907(明治40)年 油彩・キャンパス 91.0×51.3 cm



藤島武二 《かくの花》 1901(明治34)年 油彩・キャンパス 66.7×45.4 cm

今年度(12月22日現在)は12点の作品購入、4点の作品寄贈がありました。長期休館前の平成29年7月26日～9月30日に常設展示室1においてその一部をお披露目しました。ここで改めてその全容をご報告します。

当館コレクションの特徴のひとつであるイギリス美術では、日本と深い関係のあるジョン・ヴァーレー・ジュニア(1850-1933)の油彩画2点とスタンリー・ウィリアム・ヘイター(1901-1988)の版画7点を収蔵しました。ヴァーレー・ジュニアは、1890(明治23)年から翌年にかけて来日しましたが、今回の2点はその時に描いたものです。素早い筆さばきで街行く人々を生々しく描いた、臨場感あふれる作品です。ヘイターはイギリスを代表する銅版画家で、戦後は斎藤寿一をはじめ彼に学んだ日本人も多くいました。

国内の作家では、日本近代洋画の巨匠である藤島武二(1867-1943)、「イギ



スタンリー・ウィリアム・ヘイター 《戦闘》 1953年 エングレーヴィング、ソフトグランドエッチング、スクーパー・紙 30.0×20.1 cm



三木宗策 《春》 1929(昭和4)年 木彫、彩色 高53.5×幅33.5×奥行21.0 cm



スタンリー・ウィリアム・ヘイター 《クラドゥエーニュ》 1972年 エッチング、ソフトグランドエッチング・紙 48.6×59.8 cm



三木宗策 《綾織》 1939(昭和14)年 木彫、彩色 高48.0×幅36.0×奥行26.0 cm

リスで長く活動した石橋和訓(1876-1928)、フランスで本格的な点描画法を学んだ斎藤豊作(1880-1951)の油彩画(表紙作品)各1点を収蔵しました。また、郡山出身で戦前までの日本の木彫界をリードし、平成27年には当館で展覧会が開催された三木宗策(1891-1945)の《春》を山口紀夫様から、《綾織》《靈照女》《陶淵明》を平園賢一様からご寄贈いただきました。

## 貸出中の所蔵品

美術館では、展覧会を充実させるために、他のさまざまな美術館から所蔵作品の貸借を行っています。優れた作品をより多くの方々にご覧いただくためにも、重要な活動のひとつといえるでしょう。

**創画会70周年記念展** 2018年1月20日～2月18日 浜松市秋野不矩美術館(ほか7会場は終了)

貸出作品: 黒沢吉蔵《ガスタンクのある風景》1956(昭和31)年 岩絵具、箔・紙 ①

**日本近代洋画大展** ～2018年1月7日 国立台北教育大学北師美術館(台湾)

貸出作品: 石川欽一郎《牛荘(Newchowang)》 水彩・紙② ほか6点

**ターナー 風景の詩** ～2018年2月4日 北九州市立美術館

2月17日～4月15日 京都文化博物館

4月24日～7月1日 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館

貸出作品: J.M.W. ターナー《カンバーランド州のコールダー・ブリッジ》1810年 油彩・キャンパス③ ほか水彩画2点、版画約110点

2017年度(12月22日現在)は以下の展覧会にも当館の作品が展示されました。「吉田博展」(上田市立美術館、東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館)、「デイヴィッド・ホックニー版画展」(町田市立国際版画美術館、いわき市立美術館)、「雪村一奇想の誕生」(東京藝術大学大学美術館、MIHO MUSEUM)、「ファッションとアート 麗しき東西交流」(横浜美術館)、「名作との出会い—須賀川・石川ゆかりの近現代作家たち—」(須賀川市立博物館)、「ウィリアム・ブレイクと神の世界」(高崎市美術館)、「飾り絵展」(兵庫県立美術館、上野の森美術館)、「日本バステル画事始め」(目黒区美術館)



## 柳澤孝彦氏 (1935-2017)

1935(昭和10)年長野県生まれ。1958(昭和33)年東京藝術大学美術学部建築科を卒業し、竹中工務店設計部に入社。1986(昭和61)年の新国立劇場国際設計競技において最優秀賞を受賞したのを機に独立、同年9月、TAK建築・都市計画研究所を設立。MOA美術館(竹中工務店時代、1981)、真鶴町立中川一政美術館(1988)、東京都現代美術館(1994)、東京オペラシティ(1999)、奥田元宋・小由女美術館(2005)、上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館(2014)などを手掛ける。



当館の設計者 柳澤孝彦氏

当館を設計し、数多くの公共建築物を手掛けた建築家、柳澤孝彦氏。2017年8月14日、享年82歳にて逝去されました。心からご冥福をお祈りします。

柳澤氏は、当館の設計に際し、次のように述べています。「山並みを傷つけることなく位置づけられた美術館は、自然の起伏を抱え込んで、自然と人と美術の競演の場を創り出すように考えられていて、そこでは自然の変化と同じ数の風景が刻々と人と美術を呼吸させ続けるにちがいない」。これは「自然との調和を重視する」という郡山市が要求したコンペの条件とも合致するものでした。こうした視点が、安らぎある美術館を生み出したのでしょうか。

※郡山市立美術館(仮称)建設準備ニュース② (1991年12月5日発行より)

# Report

## 企画展「自転車の世紀」

2017年7月22日(土)～9月24日(日)

自転車の誕生から現在までの歴史とその進化の過程をたどる展覧会でした。自転車が現在のかたちになるまでの人々の試行錯誤をふりかえるとともに、特徴的な自転車や、ファッション、最先端の技術なども紹介しました。会期中は、講演会、ワークショップ、映画会など、さまざまなイベントを開催しました。



## ワークショップ

### 「いろんな自転車に乗ってみよう」

2017年8月12日(土)、13日(日)  
場所:多目的スタジオ、企画展示室前

「自転車の世紀」展に合わせ、オーディナリー型自転車、リキシャタンク、First BIKEの3種類の試乗体験をしました。



## ワークショップ

### 「チョークアートに挑戦!」

2017年8月20日(日)  
講師:内野しんさん  
(モニークチョークアート協会認定講師)  
場所:創作スタジオ

オイルパステルを使ってウェルカムボードを制作、また、チョークを使った描き方を練習した後、チョークによる黒板アートに取り組みました。



## 講演会

### 「自転車の歴史と経済学から見える自転車の偉業」

2017年8月6日(日)  
講師:マルコ・ファヴァロさん  
(チクリスタ・イン・ジャッポネ代表)  
場所:多目的スタジオ

自転車の歴史から、各地域(主にイタリア)を活性化させている自転車の役割等について紹介していただきました。

## 講演会

### 「自転車開発とレースに夢を描いた日本人」

2017年8月27日(日)  
講師:谷田貝一男さん  
(自転車文化センター学芸員)  
場所:多目的スタジオ

日本における自転車の歴史を、福島県と絡めながら紹介し、戦後の貴重な映像とともにレースの歴史について解説していただきました。

## 講演会

### 「自分自身を高める乗り方、5つの提案」

2017年9月16日(土)  
講師:竹谷賢二さん  
(株)エンデュアライフ代表、  
アテネオリンピック代表選手  
(マウンテンバイク)  
場所:多目的スタジオ

自転車に乗るときに意識すべきことや、自分の走りをコントロールし、自己表現をすることなど、実演を交えながらご講演いただきました。

## 自転車工房見学&トーク

### 「あぶくま自転車工房」

2017年9月3日(日)  
講師:坂田智徳さん  
(あぶくま自転車工房オーナー)  
場所:あぶくま自転車工房

自転車工房を見学し、製作中の自転車の素材や構造などについて詳しく解説していただきました。

## ミュージアム・コンサート

### 「Allende アジエンデ 小沼ようすけ+石塚隆充+カイ・ペティート+岩原大輔」

2017年9月23日(土)  
出演:小沼ようすけさん(ギター)  
石塚隆充さん(カンテ、ギター)  
カイ・ペティートさん(ギター、ボーカル)  
岩原大輔さん(パーカッション)  
場所:階段ホール

日本を代表するジャズギタリスト小沼ようすけさんが、ジャンルを飛び越え新境地を開拓するために呼びかけたメンバーとユニットを結成。それぞれの音が見事に融合し、自然体で上質な、ほかにないワールドミュージックを奏でました。



## 第16回 風土記の丘の美術展

### 「郡山市内の小学生による作品展」

2017年7月17日(月・祝)～8月20日(日)  
場所:美術館ロビー

夏休み期間恒例の展覧会です。市内を5つの地域に分けて、週替わりで展示しました。小学生が図工の授業で作上げた感性豊かな作品で、美術館ロビーがにぎやかに彩られました。



## 平成29年度 アート・テーク(報告)

### 第2回 「美術館の未来」

2017年7月29日(土)  
特別講師:木下直之さん  
(東京大学教授/静岡県立美術館館長)  
場所:多目的スタジオ

日本人がどのように「美術館」を存在させてきたかをふりかえり、これからの美術館が私たちの暮らしや人生にどのように関わるかをご講演いただきました。



### 第3回 「美は見つけた人のもの」

2017年9月17日(日)  
特別講師:佐野史郎さん(俳優)  
場所:多目的スタジオ

佐野さんが感じる「美」について、また朗読を通してのお話などを、想いのこもった朗読を交えながらご講演いただきました。



## [夏休み公開ワークショップ]

### 第12回 風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ!

2017年8月4日(土)  
講師:小中学校の先生  
場所:多目的スタジオ

いろいろなテーマのコーナーで、図工や美術の授業内容を楽しみながら体験できるワークショップを開催しました。



## 美術館における“鑑賞”

美術館では、より多くの方々に美術に親しんでいただけるよう、企画展やそれに関連したイベント、ワークショップなどを通じて教育普及活動を行っています。

そのなかで当館は、小・中学生等を対象とした鑑賞教育にも力を入れています。鑑賞のための教材を制作し、作品に親しみながら、より深く鑑賞するきっかけとなるような活動も実施しています。

### 来館する小・中学生へ

当館の普及事業において、学校教育との連携は重要な位置を占めています。毎年夏から秋にかけて、市内や近隣の小・中学生が学習活動の一環として美術館見学を訪れます。これまで、年間平均約1300人を受け入れてきました。当館では、そうした団体見学に学芸員全員が随時対応しつつ、来館する多くの小・中学生にとって「初めての美術館体験」であることを重視してきました。そのため、鑑賞学習以前に美術館や作品に対する関心を促すことを優先し、クイズを出すなど対話中心の案内・誘導を

心がけています。さらに、児童・生徒たちができる限り自発的に作品に向き合えるよう、鑑賞用補助教材「アート・キューブ」をゲーム感覚で用いたり、模写を行うこともあります。模写と言っても30分程度、展示作品から各自一点を選び、スケッチ用紙に鉛筆で書き写すというシンプルな作業ですが、子どもたちの集中力にはいつも驚かされます。最後に各自サインと日付を入れて仕上げます。毎回、彼らが熱心に模写した作品と次に再会する日を想像しているうちに、いつの間にか別れの時間が訪れます。  
(永山多貴子)

みんなで作品を見ながら気づいたこと、感じたことを話します



それぞれ気になった作品を選んで模写をしています



## 「アートカード」を使った鑑賞

当館では、鑑賞教育の一環として鑑賞のための教材を使用しています。また、教材は学校に貸し出しています。「アート・キューブ」は、2005年に福島県立美術館と郡山市立美術館によって共同開発された教材です。これまでアート・キューブを活用して鑑賞教育を行ってきましたが、2017年の夏、新たに「アートカード」というもうひとつの鑑賞教材を制作しました。「アートカード」とは美術作品をカードにしたもので、近年、多くの学校において鑑賞教材として活用が進んでいます。当館では、所蔵作品の中から56点を選んでカードにし

## アート・キューブ

「素材キューブ」「感覚キューブ」などさまざまなキューブで構成され、作品の素材や造形要素、制作工程への関心を促したり、作品から得られる印象を言葉や身振りで表現させたり、多角的な鑑賞が楽しめるように工夫されています。



## アートカード

美術に親しみ、ゲームなどを通して鑑賞を学べる教材。カードを手にとってゲームを楽しみながら作品鑑賞の基礎を身につけることができます。

ました。ふたつの作品の共通点を見つけたり、キーワードをヒントに作品を当てたり、複数の作品を組み合わせてストーリーをつくったりと、さまざまなゲームを通して作品の鑑賞を深めることができます。ゲームはグループで行う形式になっていることから、「よく見て考える」の次に「言葉で伝える」という過程が含まれ、作品をよく見て他の作品と比べてみたり、感じたことを言葉で表現する力を育むことができるのが特徴です。また、お互いの発言を共有することができ、ひとりでは気づかない作品の魅力や、新たな見方を発見することができます。「アート・キューブ」と「アートカード」、これらの教材をうまく活用しながら、学校と連携した鑑賞教育が今後ますます活性化していけばと思います。  
(新田量子)

# Information

郡山市立美術館は、老朽化した施設の改修工事のため、下記の期間を休館しています。みなさまには大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

**【休館期間】2017年10月1日(日)～2018年7月6日(金)**

休館中も様々な催しを開催しております。ぜひ、ご参加ください。これから実施されるイベント情報につきましては、3ページをご覧ください。



## 照明や空調設備等がリニューアルします。

展示室の照明がLED照明に変わり、作品本来の色がよく見えるようになります。また、作品保護のため、25年間稼働し続けた空調設備も新しくなり、快適な展示空間として生まれ変わります。

**!!2018年夏、再オープン!!**



美術館は小高い丘陵地にあり、四季折々に見せる周囲の景観の美しさは格別です。これからは美しい冬景色。カフェで景色を眺めながらの時間を過ごしてみたいかでしょうか？

## TOPICS



juju  
130 CAFE

ジュジュイチサンマルカフェ

営業時間 / 11:00-17:00  
電話 / 024-942-2250



### 期間限定

**WA!FFLE Earl Grey ver.**  
(ワッフルアールグレイバージョン)

単品 630円 (ドリンクセット 1,010円)

ベルギー産の良質シュガーを使用したりエージュ風ワッフル。香り高い茶葉を練り込んだ生地、自家製キャラメル&オレンジソースとバニラアイス添えて。

※ワッフルメニューはアールグレイの他にコーヒー、フランボワーズ等がございます。



**2018年は1月6日(土)から営業！(年内は12月24日(日)まで営業)**

来店される方に限り駐車場のご利用ができます。なお、営業時間などの詳細は美術館HP内のjuju130CAFEのページをご覧ください。

juju130CAFE 検索



### 表紙の作品

齋藤豊作は1880(明治13)年、埼玉県に生まれました。黒田清輝に師事し、フランスに渡って絵画を学びました。フランスでは印象派の画家の影響を受け、帰国後は、強い色調の点描で注目されます。本格的な点描の技法によって色彩豊かに表現された本作品は、木々の合間から差し込む光が強調され、ありふれた風景に鮮烈な印象を与えています。

齋藤豊作《風景》  
1912(明治45/大正元)年頃  
油彩・キャンバス 65.2×80.3 cm  
当館蔵



郡山市立美術館  
Koriyama City Museum of Art

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2  
TEL.024-956-2200 FAX.024-956-2350  
http://www.city.koriyama.fukushima.jp/bijyutukan/

発行日/平成29年12月22日



紙へリサイクル可  
この印刷物は、適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用しています。